

[dōnk]

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 70 novembre 2004 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

10/30

金沢日仏協会創立30周年記念「全国日仏協会サミット」

三重日仏協会からも参加

ナンシー市との交流など活発な活動を続けている金沢日仏協会は、今年創立30周年を迎えたのを機に、全国の協会にも呼びかけて多彩な記念事業を開催し、「全国日仏協会サミット」では〈価値観の相違を超越し、日仏両国の文化の質を高める〉との大会宣言を発表しました。本会からも滝沢事務局長、三吉運営委員が参加しました。以下、滝沢さんの報告:

金沢日仏協会創立30周年記念行事に参加して

平成16年秋時点で、全国の日仏協会（仏大使館届出）は52だそうで、金沢は歴史ある会のひとつということになります。

10月23日(土)に、30周年を記念して3つのイベントが催されました。第一部が、“全国日仏協会サミット”で、参加団体がそれぞれの活動のなかでの問題点、今後の課題等を述べ、今後の日仏交流のあり方を提言しました。

第二部は、記念フォーラムとして“金箔の可能性を探る—フランスと日本の取り組み—”全国の金箔の90%以上のシェアをもつ金沢ならではのテーマで、フランス人の箔打ち氏がいるのに驚きました。

第三部は、記念式典・パーティーとなり、在大阪神戸総領事のローラン・パドゥ氏も列席され、また姉妹都市のナンシーからの仏日メンバー20名、市民の有志もあり、200人以上の参加者でパーティーは予定を一時間もオーバーして夜10時をまわり、賑やかなうちにお開きとなりました。

記念式典の総領事の挨拶の折り、ホテルのシャンデリアが大きくゆれ、一時挨拶が止まるアクシデントもあり、新潟の状況をラジオで聞きながら、同伴の三吉さんと帰路につきました。



国境の思い出

田中 杜世士

1989年3月、学生時代の終わりに、ヨーロッパへ旅立った。成田発フランクフルト行きとリスボン発成田行きのアエロフロートソ連国営航空のチケットとユーレイルパスを持って。ということは、ヨーロッパでの行程はドイツからポルトガルへたどることとなる。

当時の西ドイツのフランクフルトアムメイン空港に降り立ったのは夜としか覚えていない。駅前では酔っ払いが何人か暴れていた。宿を予約していなかったので、空港で一緒になった日本人の予約していたホテルに同宿することとした。ドイツ南西部を周遊して、フランスへ向かう。

日本を出る前から体験したかったのは、なんといっても地続きの国境を越えることだった。黒い森を抜けてドイツ国境のオッフエンブルクという街までたどり着き、そこで、ストラスブール行きに乗り換える。この大きな川は何川なんだろうか、どこに国境のラインが引かれているのだろうかと考える間も無く、列車はストラスブールについた。パスポートのチェックは確かなかったように記憶している。「近鉄で木曾三川を渡って三重県から愛知県へ行くのとあんまり変わらないな」と素直に思った。でも、駅の表示がドイツ語からフランス語に変わっている。街に出れば、鮮やかなデザインのフランしか通用しなくなった。期待していた割にはあっけなく、国境を越えてしまったようだ。

その晩は夜行で南を目指した。良く寝たのか、目覚めれば、地中海沿いを走っていた。フランス第二の都市は港町だった。駅構内の列車が見えるカフェテラスで久しぶりのまともな食事をとる。駅から街を挟んで向こう側にある山の上の教会を往復する。途中、アラブ移民と思われる人たちに囲まれて、手荒いご挨拶を受ける。この旅で一番怖い思いをすることとなった。

気を取り直し、南フランスの美しい街を訪ねた。アルルのローマ時代の競技場からは悠々と流れる大河を、アヴィニョンの渡れない橋からも川の流れを眺め、丘の上のお城カルカソンヌ、現地では有名な巡礼地のルルドを訪ねる。

ルルドを発ち、曇り空のもと、ローカル線を乗り継ぎ、ピレネー山脈の麓、フランス最後の駅へ。駅前でスペインに行く路線バスに乗る。今にも雨の降りそうな空の下、バスは出発した。いくつかの集落を経由し、フランス側最後の集落かと思われるバス停で、おばあさんが下車。バスが再び走り始めたとき、運転手が突然、ラジオを入れて、車内にもその音声が響き渡った。フランス語ではなく、当時多少かじっていたスペイン語の歌であることが、何故か直感で理解できた。その瞬間、私の乗ったバスは本当の国境を越えたのだ。フランスへの名残とスペインへの期待を乗せ、バスは形式の国境を越える。突然、今まで空を覆っていた雨雲が、一片残らず消えてしまい、抜けるような青空が広がった。

あれから15年、ドイツもフランスもスペインもヨーロッパの国々は、同じ青い旗のもと、他の国が経験したことのない新しい経験を積んでいる。国境での経験も過去のものとなってしまうかもしれない。今、当時を追体験できれば、もっと詳しく思い出せそうな気がする。でも、フランスをはじめヨーロッパ諸国が私を引き付けるものは、初めてフラン紙幣を手にした時の感動のように、いつになっても色あせず鮮明なままに違いない。

会員による著書、訳書 新刊紹介

ぜひお読み
ください

〈ハイパーテロルとグローバリゼーション〉

ジャン・ボードリヤール、エドガール・モラン著 宇京 頼三訳

岩波書店 1,995円

訳者（本会理事・宇京頼三氏）からのメッセージ

イラクでは昨年春の開戦以来米軍の死亡者数が1000人を超え、イラク人の犠牲者は1万数千人にのぼり、ロシアの北オセチア共和国の学校占拠事件では多数の子供を含めた犠牲者が数百名になり、中東ではまたもやイスラエルとパレスチナの愚かな報復合戦が再燃しています。21世紀はまだ始まって数年なのに、世界情勢はいっそう不安定さを増し、その混迷の度は深まるばかりです。

このような状況は一体どこからくるのでしょうか。この不確実な現代世界にあって、われわれはいかにこの世界を認識し、この苦境を克服すべくいかに行動すべきなのでしょう。この困難な問題を問いかけるのが本書です。これは「9・11」をめぐって行われた講演集ですが、テロリズムとグローバリゼーションが実は表裏一体であることを暴力の世界性を問うことによって解き明かしています。

奇しくも「9・11」から3周年。アメリカを中心とした世界のパワーステムが変調をきたし、世界人口の圧倒的多数（約50億人）が貧困と不平等に苦しみ、「テロリズムという妖怪が世界を徘徊している」現在、本書は人類史的観点から現代世界を捉え直し、人類がこれまで歩んできた道を振り返り、「滅びの福音」の運命にある地球村の明日を考えるよう訴えかけています。ツインタワー崩落の3回忌、テロの鬼火は今なお天空を彷徨っているのです。

〈文学のユートピア〉 ロラン・バルト著作集1 渡辺 諒訳

みすず書房 5,460円

7月、今年度総会で講演いただいた渡辺先生の最近のご労作です。

病身の文学青年から、気鋭の批評家へ。精密な作家論や「零度のエクリチュール」「ミシュレ」の原テキスト、そして活発な演劇批評を繰り広げる初期バルトの、鮮烈な軌跡を伝えて胸おどる59篇（みすず書房の紹介文より）

〈山田洋次×藤沢周平〉 吉村 英夫著

大月書店 1,365円

この夏、「老いてこそわかる映画がある」（大月書店）を刊行して好評だったおなじみの映画評論家・吉村英夫さん（津市）が早くも次の著作を発表されました。最近封切りされた山田洋次監督の「隠し剣 鬼の爪」などを取り上げ、山田時代劇の魅力を完全解説しています。

伊藤隆之さん11月に帰国 二つのコンサート



四日市市出身でパリ在住20年のピアニスト伊藤隆之さんは岡田文化財団の招きで11月帰国し、津市と菰野町で二つのコンサートに出演することとなり、久々の地元での繊細でみずみずしい至芸が期待されます。

まず11月23日（火・祝）夜 三重県文化会館大ホールでの岡田文化財団25周年記念コンサート、ウイン・フィルのメンバーとの協演で、モーツァルトのピアノ協奏曲K414を演奏します。なおこのコンサートは主催者の無料招待（抽選）となっております。

（抽選）となっております。

続いて11月28日（日）pm 2時より、菰野町大羽根園にある美術館パラミタミュージアムの展示会場で、お得意のドビュッシーの作品から、前奏曲第1集ほかを演奏します。入場は入館料のみで、一般1,000円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料です。

四日市と津でヌヴォー・パーティー（後援事業）

ことしもワイン新酒を楽しむ催しが、それぞれ本会会員の主催でワインショップで四日市市と津市で開催されます。いずれもボジョレほか仏、伊の各産地直送の「ヌヴォー」が存分に味わえるほか、さまざまな趣向があるそうです。

四日市 ブティック・ド・ヴァン スズヤ主催

日 時：11月18日(木) pm6：30からとpm9：00からの2回
場 所：同店の2階 会 費：5,500円
申し込み：スズヤ 四日市市鶉の森2-8-5 0593-50-2500

津 ワインショップ ウチャヤマ主催

日 時：11月19日(金) pm7：00より
場 所：津都ホテル 会 費：5,000円
申し込み：(株)ウチャヤマ 059-226-3312 fax 059-223-0230

C I N E M A フランス映画上映案内

ADOLPHE 〈イザベル・アジャーニの惑い〉

ブノア・ジャコ監督2002年作品 主演イザベル・アジャーニ、スタニスラス・メラール、バンジャマン・コンスタンの名作「アドルフ」の映画化

12月4日(土) - 17日(金) 津・大門シネマ

059-246-8631 (12月7日は休館日)

訃報 横山 秀明 さん (三重日仏協会運営委員)



本会会員で長らく運営委員として活躍された横山秀明さんは、1月ごろから病氣療養中でしたが、8月12日死去されました。54歳でした。ご冥福をお祈りします。

横山さんは1987年の三重日仏協会創立当時からずっとスタッフとして会の運営にかかわってこられ、特に会員名簿の把握、機関紙の発送など地味で大切な仕事をいつも黙々と完全にこなして下さる縁の下の力持ちでした。フランス語の勉強に熱心で、この間、会話教室と原書講読を休まず続けておられます。ご自身セロを弾かれ、聴く方でもすぐれた耳をお持ちだった一方、F1レースやフットボール観戦にも熱中されるなど意外に多趣味で、また博識なのに感心したものでした。先日、スタッフやフランス語教室の仲間が集まってささやかな「偲ぶ会」を催し遺影に献杯(写真右)しましたが、みな口々に横山さんの控えめで穏やかな人柄や、会のために尽くされた功績をたたえて話題はつきませんでした。例会を欠席されたあとなど、「実は親を連れてヨーロッパ旅行に行っていて…」と小声で話された、あの横山さんが若くしていなくなったとは、ほんとに寂しいです。(井土)

